

日本初開催！「第5回世界工学会議(WECC2015)」に出展

科学技術の祭典で、関西大学の「知」を世界へ発信

—先端科学技術がもたらす豊かで安全安心な暮らしをめざして—



▲「第5回世界工学会議」に出展した関西大学の展示ブース



(左)ポスターセッション (右) 平家物語絵巻の「超高精細デジタル化」

関西大学は、11月30日から12月2日の3日間、国立京都国際会館で開催された「第5回世界工学会議(WECC2015)」において、ブース展示およびポスターセッションを実施した。

世界工学会議とは、工学のあらゆる分野を横断し、技術の進化と社会貢献について議論する国際会議であり、世界工学団体連盟(WFEO)がおよそ4年に一度開催している。日本初の開催となった今回は、統一テーマ「工学:イノベーションと社会」のもと、約80カ国・地域から先端研究をリードする各分野の著名な研究者・技術者・政府関係者ら約2000人が集結した。

本学からは、理工系学部をはじめとする5学部・10人の教員が先端情報技術・防災・社会学といった取り組みについて参加。展示ブースにてシーズ発表、ポスターセッションにて研究成果発表を行い、環境問題、健康と安全安心な暮らし、エネルギー問題など、世界が直面する重要課題の解決に、先端科学技術がいかに応え得るか多面的な意見交換を行ったほか、文化遺産の保存と継承に挑む文理融合の取り組みなど、総合大学ならではの最先端の研究成果を披露した。

◎イノベーション対話プログラム「AjiCon2015」開催



～文系学生と理工系技術のコラボが生み出す新アイデア～



関西大学では、12月24日、グランフロント大阪にて、イノベーション対話プログラム「AjiCon2015～文系学生と理工系技術のコラボが生み出す新アイデア～」を開催した。

このプログラムは、本学理工系学部発の技術シーズを基に、商学部の学生チームが食品関連の新商品開発を目指し、企業関係者や研究者・消費者との対話を通して、事業化に向けたアイデアを創出するというもの。

今回のテーマは、技術シーズ「過冷却促進物質」。これは化学生命工学部・河原秀久教授が開発した物質で、0℃以下で氷核の形成



▲技術シーズについて説明する河原秀久教授

を抑制し、コーヒー粕や餡粕から抽出できる。食品にこの物質をエキスとして微量添加することで、商品を未凍結状態で保存することを可能にし、食品の品質保持や、冷凍できない果実や野菜の長期保存、海外輸出などが実現できるほか、組織や臓器保存など、食品以外への応用も期待されている。

当日は、商学部の荒木孝治教授ゼミ、西岡健一准教授ゼミの学生8チームが肉や野菜、豆腐、スイーツ、麺類などの身近な食品を用いて、外食産業や食品物流など、多岐にわたるビジネスプランを発表。会場には企業関係者や一般の方を含め116人が来場し、活発な議論を展開した。結果発表では、投票により、品質を落とさずに保存できる居酒屋メニューの展開「居酒屋革命～10分でわかる新しい飲食業のカタチ～」を提案したチームがチャンピオンに選ばれた。

今後はURA(研究支援専門人)が中心となり、研究推進部、社会連携部とともに、産学連携プロジェクトとして事業化を推進していく予定である。



▲学生チームによるビジネスプラン発表

◎「キャンパスママまつりin関西大学」を開催

大学とママ&キッズがつながるキャンパスイベント

12月13日、千里山キャンパスにおいて、NPO法人関西大学カイザーズクラブおよびNPO法人チルドリン主催による「キャンパスママまつりin関西大学」が開催された。

「ママまつり」は、ママの「好き」「得意」「経験」を集約し、全国展開しているイベント。今回は「ママまつり」史上初の大学開催としてカイザーズクラブと協同し、大学が保有する知財・人財・資材を地域に開放した。

当日、チルドリンからは親子で楽しめるワークショップなど40のブース出展に加え、華やかなステージパフォーマンスが披露され、会場は始終にぎわいを見せた。一方、カイザーズクラブではサッカーや野球、チアダンスなど、体育会の学生たちを主な指導者としたスポーツ体験が実施され、バフフルに活動する子どもたちの熱気に包まれた。また、本学高大連携センター提供による「回転」をテーマにした「サイエンスショー」も行われ、子どもたちは円飛行機の作成や実技などを通して科学の不思議を体感。総勢4600人を超える来場者の笑顔が溢れる大盛況の一日となった。



「そうだ！選挙に行こう！18歳選挙権フォーラム～明るい選挙推進講座～」開催

若者よ、立ち上がれ！“その一票で未来をつくる”



▲(左)約550人の学生が参加したフォーラム(右)パネルディスカッション
12月19日、千里山キャンパスにおいて「そうだ！選挙に行こう！18歳選挙権フォーラム～明るい選挙推進講座～」が大阪府選挙管理委員会との共催で開催された。

このフォーラムは、昨年6月の改正公職選挙法の成立を受け、今年夏の参議院議員通常選挙から選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられる見込みであること、および若者の政治離れが指摘される現状を背景に、大学生の選挙への理解を促すことを目的とするもの。

当日は約550人もが参加。法学部の浦東久男教授が「新しい税制、選ぶのは君たちだ！」をテーマに、政策選択の機会として選挙の役割について講演したほか、学生を交えたパネルディスカッションも行われ、若い世代の投票率低下の問題や選挙への意識、教育現場の取り組みなどについて、熱い議論が展開された。

GO! VOTE!

人材育成、研究・実践、森林保全活動を通じ、地域活性化に貢献

和歌山県及び田辺市と連携協定を締結

1月13日、関西大学は和歌山県と田辺市との間で、地域活性化に関する連携協定を締結することに合意し、和歌山県庁にて調印式を行った。今回の協定は、和歌山県が進める「大学のふるさと」制度に本学が賛同



協定調印式での楠見晴重学長(中央)と仁坂吉伸和歌山県知事(右)、真砂充敏 田辺市長(左)

は、都市部の大学と過疎化の進む市町村が協力して地域の課題に取り組み、活性化につなげるというもの。教職員や学生が田辺市の活性化や少子高齢化などの問題に取り組んでいく。

また、関西大学は、田辺市本宮町の森林3.58ヘクタールを借り受け、森を守る「企業の森」制度にも参画。授業の一環として、学生などが森林保全活動にかかわっていく。また、今後は同市へのインターンやボランティアを行う予定のほか、農産品の六次産業化等の連携も推進される。

調印式当日、楠見晴重学長は「関西大学には3万人の学生がいる。さまざまな取り組みにより、地域の課題を解決し、地域に貢献したい」と挨拶。和歌山県知事、田辺市長も関大生のパワーを用いた街づくりに期待を込めた。